

利門
番 1.539
卷 6



鹿山集秋才一目錄

初秋

秋の柳

七夕

生見云
蓮之版
指結

躍

文月

秋蟬

一葉

桐

魏系

燈籠
對記

桐撲

秋螢

初書

枯納涼

露

花は涼

秋扇

槿

新顔日記

燕山集卷才七

初秋

涼一此は也秋の風少く

秋来ぬとをふ少れ秋の交り

涼一さそ風うりりあると物

筆をうて吹やち秋をせの口

杖はくや橋吹秋のをさうこ

七月の地獄の火金やあま此は

古任

酒取

奥西市

友三

右也

好川

左系

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

庭よりとて入る来の素秋

長頸此

一葉

相木をちと枯らせ此落葉
なまなくや庭ふ柏のりんご
双六の葉をまきかす枯の色
秋きぬとくふ相みとらふ葉
一葉や夏とい枯へとて一
ひちと一か出ると枯の葉を

中納言

貞宣

葉色

元

生高

方勝

伊勢山をぬき庭木をくらく

連若

彼岸ふちのくやうふ玉柳
一葉ちちら八のふの七のろ
一葉をぬきぬ枯らるも同なり
風を舟よとらとて一葉を
楓のちち一葉の泣か枯の山
一葉の舟は帆なりや蘇れを

江戸目録

好永

強念

秋意

友若

貞則

大信

好道

長頸此

同

一葉もやなむり木のらうあはれ

七三

月

秋柳

秋は秋柳の氣力落葉か
金又かきこむ柳や観世喜
秋風かともつ観喜の柳か
ちうちれ思ひまつ魚けを柳
水す記か浦くもちうちのふ柳
一葉ちれ浪風や強盜柳原

左後

宗清

良和

月

左后

貞利

赤色やよきこむるうれ朱柳

左後

貞治

秋の風ハ髪切中りうもやうと

左後

貞次

校るうちう柳葉やりや元舟

左後

宗清

柳髪つまろふるれと自割

勝之

下子の鞠一葉とつら柳か

長次

桐

葉のちれとよめ鳳凰やうらり

遊書

桐乃葉のちりちりたる此本葉の
桐の葉を波かきく井戸の
井はあかしくさく桐の一葉
杜きぬと目よそくさく此一葉
桐流かの一葉の本を此く糸
鳳凰の林桐葉の刃をさく
桐の葉のちりちりたる井

宗畔

未始

永春寺

貧女

増城内をさく

心也

江戸の歌

從英

大船とくさん桐の一葉をか

セタ

うらた葉かきけセタはせんを節

月の舟セタかきせあすの川

さるうこと減や移るひの糸合

ひく半の目もやきんくち二星

久寝とも星や移るひの眠ん

天川やあられさく移るく書

位田ちあ

政信

定春

かきまの橋と齋造の九月
織姫やうじふらりあふお七夕
七夕の寝物造やき、うてん
双六の逢いてらちれ二つ星
七のまんが男のうら二つ星
男七夕肌ゆらうたなれ子、い
系や海ふりけまの舟の星
孝聖いと青玉志のうてんか

宗時

雲我

毎夜

自記

友三

清きりあ

定鑑

獨りうてん

清之

月

月

つゆ海もこりりや二つ星
あかりと七賢の枕あうてん
えじらふらせせとらんのかげ
せせせせのうそ一まきれうた
をきまの程と二つ星同り
七夕のうそいせと一まきれ
流のまを一敷おのり同針
銀うらとねふらうたはらう

令中

斤相法

良保

中井深

元信

和別池

正武

磯別高田村

佐と

中

三

吉也

三

宅

セタ母らいつ文月おのくまんが

口政 定利

織女のきりりささいささうと種

夜 夕暮

セタれ一六三のこをの節

五夜 月

セタのわいの使やセタ半

五夜 持保

セタさのんひるしを

系位 夕暮

織女らまきのえ孫ともちちさう

中夜 永若

文月の星わい志やう此難書外

中夜 永若

のけらさやう流の粒れさあ

利政

セタの系川まのやまの星

伯方七夜 夜次

鶺鴒の眼れたまのゆさ川外

振羽小夜 吹白

目望まると宵逢ふ紙すつ性

系川 元晴

光らとくの夜通姫のわたさう

系川 夕暮

さうさうやおみセタの何事

日田系川 夕暮

セタの好物れ文月つる節

長夜

セタの何事なるわら蒲萄外

同

織女の中合人なれやまの

同

七夕やらんわらわ娘あつめ七夕
こゆらちる星や七夕の娘
あどきうけころ年の七
月 月

夕母

約くらんわらわ娘あつめ七夕
うゆらちる星や七夕の娘
七夕の七献まの道一献さけ
あまお抱くと七娘はちちも
月 月

七夕やゆきそくらあつめ七夕

魂糸

袖しらわがろりと落れ玉糸
あまのなごころの玉糸
灯籠の火を夜光に玉糸
茶の湯をわらわの玉糸
思ひおろけや先月の玉糸
しらくもまの玉糸

麻の葉も木蓮も木蓮も木蓮も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

老の跡も木蓮の葉も木蓮の葉も

焼香も木蓮の葉も木蓮の葉も

法の花も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

友谷

貞好

日

貞利

三原

元晴

信田

政信

仙石

如實

尾形

正興

留永

泰秀

也之

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

木蓮の葉も木蓮の葉も木蓮の葉も

尾州

純可

河

未得

河

林麻

西長

正徳

季吟

聖具のひまを味をらん文月并

聖具 忠良

美此神也こんく菊り此玉系

尾修 吾盛

思ひをせつたいつく燕の玉系

森初年 夕翁

百子夜をけく名を方玉系

長松 繁社

露をげく聖具棚や玉の床

長松

俄鬼の目も水もせぬ燕共は懸

長松

面じきふさうるもく燕共は懸

長松

比鞍舟の鬼やあまする燕の

長松

東の御門跡くそ燕の比

増してしらすもく燕共は懸

長松

燕の月や似お花く此金の

長松

燕共抱きれあくるまろく連系

長松

連の燕や生具在のかられ

長松

生具玉 付 蓮飯 指 菊

さこそ世帯もさあつた燕共祝候

極口年系

親もさあつた蓮の飯をいし

道系

蓮の葉おけりつひるれや結の結

奥西

友三

さう結の尾へ結や殿の矢の結

尾列大山

盛次

函此せらるや寶此生つ人玉の結

政成

よちれてもあはれくいとあくと生之玉

生威

蓮の飯おけりつらるや蠅や玉之玉

守榮

燈籠付 花火

汎ちりて梵天まきくや楊之玉燈籠

利政

花燈籠あつひびけの比之玉燈籠

元親

星のりくろそ物之玉燈籠

定之

名字とみく作つと之玉上燈籠

幾成

あつり火と之玉と之玉と之玉

長宅

くちかぬちの跡へ花火之玉か

酒平

竹の舟お是と生つら花火之玉か

安利

乞や此火氣と之玉花火之玉か

長宅

月おゆけもたをの柱を之玉花火之玉

長親

うらゑのふらやおけの上燈籠

月

躍

夕らり時あきまぬや本當か
 約りそよ月色の夜まじり
 手も足ももろ祿遊目のおろり
 取靴うちておろりわらんれ
 右靴ひいておろり念佛踊
 りし中へお物おせよ本當か
 本當踊材をるこれ踊り

八らりお折るかおれや十六夜
 あかくの茶釜ん髪てや本當
 色まひくくちくら此さの踊
 初八越田十一おとしよう
 芥のさぬおさいお所のおろり
 麻衣や少り袖少て本當踊
 妙ち少りまらつた遊目に
 橋をうて芥をからるやま

申す申す女や多し本堂をとり
るりゆりも小町がしらや相狂
きりえれむ様をちりやたえ
後生拍子あくらやけに本堂踊
後の世をのりて目になりりか
おるやせ報判友本堂おとり
とむせくを報子のひら本堂
新あそびのひらおんの本堂

うきうきと小町踊へあそびが
目目の踊や遊方をふくらむ
うきうきとあそびが
人のあそびをせん那集の踊
俺れきとあそびが
舞中そとひらけや本堂踊
吹笛のゆひらけや相狂
本堂踊をむく巴のさくらか

奥五
友三
森井しと
正知
任事社
政能
正利
友石
貞好
威威
土山
梅子

切之りて子孫子孫やけん坊

江戸色了書

水邊遊の踊ハ世々宮眷うふ

五郎

みらんとの文ハ歌書り本常踊

五郎

これより其わさまなる本常

五郎

越後布やきく志ちのり本常

五郎

もてくららや拍子のり本常

五郎

左敷とつりしはこも拍子本常

五郎

多邊坂きく南座

お邊坂や清方の冠者本常踊

五郎

只柱とれきあまの十七名は

五郎

おまのりゆんけりし月も付
もくそ新比と丹色いり本常

尾列

弁ハ清き小町踊や侍坊踊

五郎

是拍子場三月おまのり本常

五郎

小町踊おまのり本常

五郎

三十一

五

お母あうもおのくふ小可踊水
百舟やう嬉ら色あつてさう家
るらわき急踊を教り急あう

相撲

あつていひくち遊ばすおやうか
さすいあかちあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあ

情磨がけふさうやあつてあ
あつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあ

高橋 良徳
仲村 貞徳
高橋 貞徳
高橋 貞徳
高橋 貞徳

たつあしとそら流るまゝつらひ

元徳

基此をわおこうひらせと撲

重宗

下帯のちを赤く実流す

保友

下帯とわうくや井を此置撲

同

鐘と月の軟お撲の手や志り

政信

んしわ目お撲つらむけを

月

ちけおやせん孫ん孫ん孫ん孫ん

那承

足指をわん孫ん孫ん孫ん孫ん

林森

多流るるとつと足流す

巾包

山雀の梅うらんちけのね撲

夕氣

ちんたの名家ハ流り流す

浦成

鬼とくちや六道のけお撲

虫丸

文母

雪に神女からとわの流り文母

かろりさへ等母を流し五月

文母の入や前のかり

多月を秘ぬ人もあつらふ
ふくち多月入家少とこふ
曇るあつた建初らせん多月の
文月やむくまきくえち平地
ちくたの彌固の盡の月とん
あつたのあつたはあつた月よ
丸くあつたはあつたはあつた
ちくたの彌固の盡の月よ

文月の秋葉おちり水の西
こころあつたはあつたはあつた

五文月と

二つあつたはあつたはあつた
あつたはあつたはあつた
文月とつたはあつたはあつた
二つあつたはあつたはあつた
あつたはあつたはあつた

天邊此手続るれや文月夜
文月や西よのすりり東より
あわらるれや清室の文月夜
文月や書けとやふ書かれ
友のいれり物中並み月夜
物書れ玉書りるや文月夜
今もこの為物あく文月夜
と桑あく蘭の文月夜

七十一

之和

伊貝

直昌

笑翁

清成

久貞

隆成

月

木成

月

物翁

長頼氏

日

秋堂

小車の花母あつらへるさ尖

三十一

秋の戸の面をよもみ行の露
秋の月紙をさうりたるとるよと露
くさの魂まうらな野ふらふ露
あゆまひくはりの露や上灯籠
長鹿もりや秋もてらふらる
魚もくまきぬ露や佛の火
月新ゆまうら露のひる事
螢出りた世の火おしうらる

秋

長鹿

安の

月新

孝属

推山

保友

来江

三秋

露野

正次

徳の作

後次

紀別

正次

長路

秋の秋の鹿をれ虫の露の火
あゆまひくはりの露や上灯籠
あゆまひくはりの露や上灯籠
あゆまひくはりの露や上灯籠
あゆまひくはりの露や上灯籠
あゆまひくはりの露や上灯籠
あゆまひくはりの露や上灯籠
あゆまひくはりの露や上灯籠

秋蟬

目くらむるもあゆまひくはりの露
あゆまひくはりの露のたのみの露

守業

露子

和胡

三十八

声やまをうらふあけうら秋の野

玄可

稻書

稻書あをきん源氏のやまのくれ

稻書あをきん此うらもの弦や菊

稻書あを月まな夜はとくあふ

知の雨と海とらまゆそ稲城

花の海はけけと稲書待秋外

稲書のうらうら波のあや

安部

自友

道清

二心

稲書此うらうらかなやらの

あまて稲書とま川賤男外

いるすふあうらうら男外

良膳

長翫

川

秋細涼

涼めそくうらうら秋の色

夏はあつり秋はこれら糺園外

居あをよきす風の吹屋外

秋と夏氣のをくうらあ川外

元親

良保

風口のうさむるれや春の露
ちんとうく露や蛭まれば
露はせとあのだまつく小篠
まこととやれ露のそそ露
赤玉の二葉の上は秋を露
山科の草木や露はわりの深
あゆみは露のそそまも露の玉
なごらんは徳志の所は露の玉

月も木も盛みくまの露の
秋の野々みまも露は丸は下
露の葛れ下葉うそくふ園子
露はま月もくまも秋露
小車のおもやんまつる眼くま
露のちやおもまこつ上の小夜時
月移つと露もをさるる世露
葉とむくのあをまらるる露

相見
一滴

一治

新子雨のそんこあつくやけの
あゝ病と来ぬまうららや本塔

義寺
法別
少
書安

又の遊書

吾人の舍利のうんけの神志
火のそらて目ふそ何や病の
深草の落やあおれらあめ
秋風やあふくあせの落ら
本賦ぬいさうてはくろあは玉

次度
如負
永在
橋屋
橋屋

ちさり極さそを落の丸
落さけさ野寺此道や救珠
のりささ此落や極つて福海

正伯
毛丸
同

橙

あうらふ此星らうもや牽牛
翔貝や目まけぬあら花の
長巻うや船歌あはさ宿の庭
船うかも去らり出る目まを

一目此棠のまゝのまゝにむく様を
報款や色もさうゆも物もさ
わさ息やありとあへら花の
物款と長志のなめつけ回ふ
わさる母を頼りし朝のまが
物款やじり男此奇のゆり
様や目くめわしたる花は
清らたまや美もさ何の奉は

尾列名はは回さ

一乃

長治名

長治名

定房

紀別於川位

長城

文一

ひるさうふさせる物款の花は
いほりりや美草雅の奉は
所らめぬる物かの花は
わさふかの花の命やうあ

存

三多良

長福名等内承

昌行

辨朗

長福記

月

花紫

花紫の上らとつるひ花野か
款乃さきむ花紫や友式ア

牛橋

良次

祝とつる母来らるよ

崑山集秋之中二目錄

萩

女郎花

薄

桔梗

芭蕉

草

花野

萩

蘭

木槿

仙舟花

芝菖

大豆

付刀豆

秋草

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

萩のよきや秋吹るせの口し

夜友がたを

感庸

秋さゆをむやうそくちりし萩

定利

萩乃秋の歌よる後の花軍

宗武

文字母あふも物や出と萩は

如貞

浪の勢と浪萩や伴物抽きこ

月

うけたたそ萩中宿るふ萩の風

長純

萩のよき名るれは萩乃よき

月

萩の風さすかゝ萩はむひや

日

萩

とちりそ子らもやまの萩の花

露の親そこころかゝる小萩は

萩中吹るやあふるくじふさき

はよふと深きものやとさき

萩のよきと文字母もかく萩の花

とちり萩ははよふとひらたの細

は葉の萩やわき幸萩のり

長きまてまゝしほりて花のむ

長きまてまゝしほりて花のむ

一歩

中六のまはれや流石の花軍

中六のまはれや流石の花軍

多佳

新うた森やあまきの袋角

新うた森やあまきの袋角

玄樞

心もあまじいとの胸の赤の

長調花

麻を刺そ持人の矢と花の花

月

まはりの白くまはれさる花や花

月

は東のまはれ人の紋うた花

月

ふまゝいれや新うた下まはれ

月

お月のひらけも花のまき

月

女郎花

男少へたのあうとそそ女郎花

れ月のあうとららるあや花

目くさるあや僧あや女郎花

歌をうたはれあやあや

つやらの玉髪あやあや

たつあやあや

若くはるく佛とてかごとく風池
花よけかゝるも力なく書は花
この家ありてかかゝるも即花
男かろふりしか目もかゝるは
見かかるとかゝるもかゝるは
女即花かゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
見かかるとかゝるもかゝるは

くこの目くけりあつてかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは
かゝるもかゝるもかゝるは

季吟

定房

長昌

後成

信次

正武

保友

女郎花なむ離別のたしお山

左平子
盛福

男山の有ゆり子もわうこま

横江
若次

やまの科のみさういんほ

兼光
若昌

三後の雨風露乃とんかん

未得

枝も科もやいちわうこま

秋政

男松風やるむくゑ縁とんほ

兼光
兼以

ふの泡も似たりも投りぬ

兼光
貞好

玉ありちるいびつとんほ

定重

恋とつらむせ物の種のみ郎也

尾崎
初純

花籠もあふあきだりぬ

秦重
好道

花さうりもやたららとんほ

坊
直島

野色も寝つわらぬもたんほ

兼光
宗利

身もたれやうかき同もれとんほ

政貞

三人なまらぬとみく

響もやうけし

兼光

三人やがめいぬとんほ

三徳

花の葉飯くらやとんかん

辨別松坂田村等
加友

とるそはく葉餅くらやとんかん

月

とれと葉とじとやあとも気上臈

乱品
月
过孫子

風流を白いや肉裏上臈花

言
梅威

あま近ふ方の上臈くらんか

毒
初純

蛇と形はけりりくひあま上臈花

信
政重

はぬすの書女房のとんかん

信
政信

鏡あけを雲眼あまのあま

廣寧

風吹ら狂女とかなやとんかん

兼心春のれん
後原

毎風草あ鬼女のあま

兼心春のれん
貞則

なみくとるあまのあま

兼心春のれん
元信

花の細とくやあま

長頭花

あま入ひくや成道女郎花

月

まのいさくあまのあま

月

御耕の鬼とそまのあま

月

花のあまのあま

月

梨と母とく鶴とをまけんめ節を
在者娘のきりつをまらう
中郎花咲ふ野ちや門流宗
月 月 月

菊

園乃秋ももてわきんは花盛
風舟露ち〜小紋うららとわ
雨露の母は礼儀のゆら〜
とみら〜芳菊等やふ小振ら

あら〜子もふまて〜らやめ
まて〜色ハ氣をくれんを菊
行秋の美ふあめかきわゆら
あ〜母と〜い〜あ〜あ〜
風ぬきや〜葉菊のゆつ〜
むら〜ら〜もや大い〜ら
葉菊や〜のゆ〜ら〜
暮月〜ハ氣をぬら〜の花

坊のいぢきさんら様あはじり

香子吟

ありぬ勝やれりりともあらし様

友中やうら

あらうり家つと花やうり様

一愛

とを野とやんまがし咲か来

定宝

在頭すてゑてもやうりらん蘭

定宝

花とふじ雨の是もや榮拍子

紅粉屋ははは

坊のてたるもきく志らん

か別

上と下母候ハ一具の友り候

香子吟

山の勝やぐもすそわあらし様

成守

むろのらみきり色たらんあはしり

抄か

見られていぬ来も母せふ拍子

香成

高ハ家あふまのこら平あはじり

時之

ひをやふたわたくもさぬ様

物語

あはしりまきそのひ酒らん様

信元

坊のいぢきさんら様あはじり

信元

同母志とけくををりんのぬ様

成守

雲のくもやういふもらうを
長蛇

丹波布てぬらういふを
曰

くこれからいふを
曰

菱草

若人若女とハ夕女をいふ
葦

たぶこのあかきとあていふ
後治

薄

露の玉と散珠うらうら系
系

夜もぬらういふを
系

ちうゆいふ露の玉子やあ
系

夜もぬらういふを
系

螢火とけさハ物の尾も
系

武彦野ハく廣袖乃尾花
系

芝松のあゆみとくこ此系
系

梅舟出ぬらういふを
系

新入の子と切をいふ
系

此の種を長神を言ふ也為る
 林を母鹿也為る或は為るの種
 瓶名一字ちひくうすまき為
 拓涼の玉うすまきけまの者
 名のみまじ腰帯るれや
 あふんやうらの為神も
 若此秋尾花や神乃うり合と
 思ひ草尾む神やあり心

如所 式武
伊、本らるる 後次
中内河 合次
了無奇 貞直
了無奇 貞直

一きといへく廣神の尾花也
 名所のむして
 ちの神を雨はありやくもむ
 長神といふ山鳥志とまぬか
 風吹ハ沖津とく波や新尾む
 春丸と刀丸を其神の為也
 わりを見よ新丸と為るうら
 久く物と流とぬ新丸と為也

紙中村後名 合次
河川を開け 春雷
言流た名 元晴
了無奇 貞直
了無奇 貞直

露の玉垂れ孔蓋の尾筋

行榮

年時最下を交む

東の流渾まりの河池を

乃為といふは以て命と云ふ

唐船やうりうりのつすぶ

長徳

めく野もてく子るまじ

同

孕みくも男れ名とやし

同

ゆひささくめりぬを新薄

同

わきわきの神り下りぬ尻む

同

本権

花のよりとゆとく針咲ひけ

作野ス

先并く花を肉方けく

大坂

倉敷

火とやるとびけり清志

了女寺

久能

栝校

花と雲深付しるも栝校

くさむしきまもる花の冠

見たりも氣程乱酒のむらさ

紀伊池田の
志摩

咲き花の程も枯枝の

大坂
油成

さへも枯枝の程も

揚州
酒成

仙翁花

答むらも出るや一角仙翁花

花のみの程も

さへも枯枝の程も

さへも枯枝の程も

有谷
貞利

小車からさるるさひの仙翁花

揚州
志摩

花のみの程も

有谷
貞利

花のみの程も

有谷
貞利

花のみの程も

有谷
貞利

芭蕉

花のみの程も

揚州
志摩

花のみの程も

花のみの程も

揚州
志摩

優曇花とつらふ花のつらふ

花

はる花

花の名いわつらふ花は志

女郎花やけぬ目りのはる花

七人さうやわ志やんは花の流

中よれさう花はくせんの子郎

秋は女英葉地のさちちる志

草

松茸のつらふひとつらの折

女ま男松の折やけれ本の花

松とれ本の子さうじやれ

本の子やわ松の葉とやう

花やそさう松けの春る

雨さうぬ葉さけも又たまれ

海さ折つららむらふはく

さうたれわさうさうの志

方田

夜

御

花

山

花

大坂

花

志

梅

花

花

江

好

志

賢人乃刀くさけわふ川を

玉川

一本

氣草ハ根ををふらふ有ふ

地

元子

喉乃空人引あすけ気草

佛作

良保

とんまのくはくつるも草

江戸野志

正勝

氣草此わりの人や水龍

草名

龍政

とんまのりあも林乃日此草

中井

留好

瑞草人比然れくも草

羊病

忠幸

氣草人比然れくも草

羊病

良以

賢也續乃空ちと出ふ草

大坂野

正次

野草此足者つ小種の日く

任母

重紀

やうの山かたつあふ本れ

左津

也貞

人繁く約乃名花やまも

林麻

松さけいふ小そつかしく

長親

本さけいふちりあつこ

紅紫

月

松草やまそそておふ

瑞の内

月

あふさけいふもあふ

傘

月

肥るも未熟此は乃氣草 月
ちと久のあ珠一の氣草 月

大豆付刃豆

青大豆や豆腐はうその名盛

さし豆乃実中玉露やまやま

細豆の風の孫さる大豆白

棒さるは秋さるもやま男

園中棒さるいまやまの

右田本丸

法政

未次

さる

さし豆をさるものさるはる 貞利

友谷

花野

花のさるはるはるはるはる

花のさるはるはるはるはる

花のさるはるはるはるはる

花のさるはるはるはるはる

花のさるはるはるはるはる

梅田本丸

重植

ひさし好も幾子枝のこれ道
若柳乃多や野をこれ花軍

抱ふもあつ
保友

曰

秋草

まらふさふさうまの秋草は花盛
紅紫まらう幾もやさなかりうう
すくまや風を押しむじ奇は毎
秋のこれ秋のゆきうふすまも草
野草は秋もあらあかんまをい

水うのつきう先く落れ秋
野とよまの落れやそのまのま
久はくも花たりまのまのま
ゆきも極うまをまのまのま
秋風も象の戯れまのまのま
みそ秋のまのまのまのま
くらまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのま

まらきあはく敷のうらまや葛袴
とくたの細やまのうねとらうを

林かまらうをまをく人こや

いん法ひ一何

林の雨似せしうはまのうらま

合さるや鬼のー一まのすまひ草

小車かまらう池つまれの落

やういそかまら小車は花の落

籬とく浮とわらん約好糸

花さけいんがくひひの思ひま

落めつら風かようわことまひ

まそらとまも心約はまき

小車は花かいらひ葉の那

小車と好ふふ花もなま車

小車とよみかそやまうり花

輪扇りさくうり小車は花はるん

在政
徳勝
伝元

花母落也 結小月毛の約つるま 未得

いそしくむくもあやせん此約り 貞秋

枝折へらと雲誰りあふ流るま 元晴

わらわの此まをうんていつつる記 正徳

花ちりれ流のまありゆて約つる好 玄茂

繪よまそいつまやせんせん約つるま 政俊

野分うそ芝最なうり此すまの草 未得

うそまのたかろうそまを流るまのま 正賢

風のふと竹逆かろうも流るま 宗成

草此えいつ川織杖の鬼此志許 貞利

飲喰ハせんちうさつこの花見式 貧考

と所かましくまのまをまらう人 甚下

おかしことひもかまをそこの横こ 甚友

物よ物く人母流られ利根ま 長宅

花を根か地えあうり利根 貞山

田の中かまらあうりるま葉師 身

物火て移るも志の固し葛うん

中流 玄母

花や那世をやり一節暮る後

物引 治定

国母らそ業しるまきんうと心

物引 長宅

志のこり思ふりらこりいぬん

中流 永石

粒珠玉れあや水晶くいぬん

尾林 儀重

花や思ふらふまのなれりうん

蓮生寺 一歩

この枝縄あさうせんうん

大坂 助吉

身もろそ色もぬる若登灘

尾林 中流内 貞宣

法の道そを磨れわぬかぬ

豊島 貞宣

袖の綿や雪うもぬん

福井 法定

くらも枕さうそくふあひん

東京 政純

海老うらめじとれがし

政純

林の野とぬい針糸や草うも

政純

名草子と塩そあかめい

政純

外をせや伊勢のる

後功

お花やさぬくち草の島

草花

愚秋

掃除の草をむく花の

列位

心算

花のつとむる

花

とまひの草花の

定房

百病乃長つる花の

花

方取

花の草の

花の草の

長

七くさばまらり花

月

小車花のこま

月

小車やわらひ

月

花の風の中

月

花のま

月

草のつとむる

月

花のつとむる

月

花のつとむる

月

花のつとむる

月

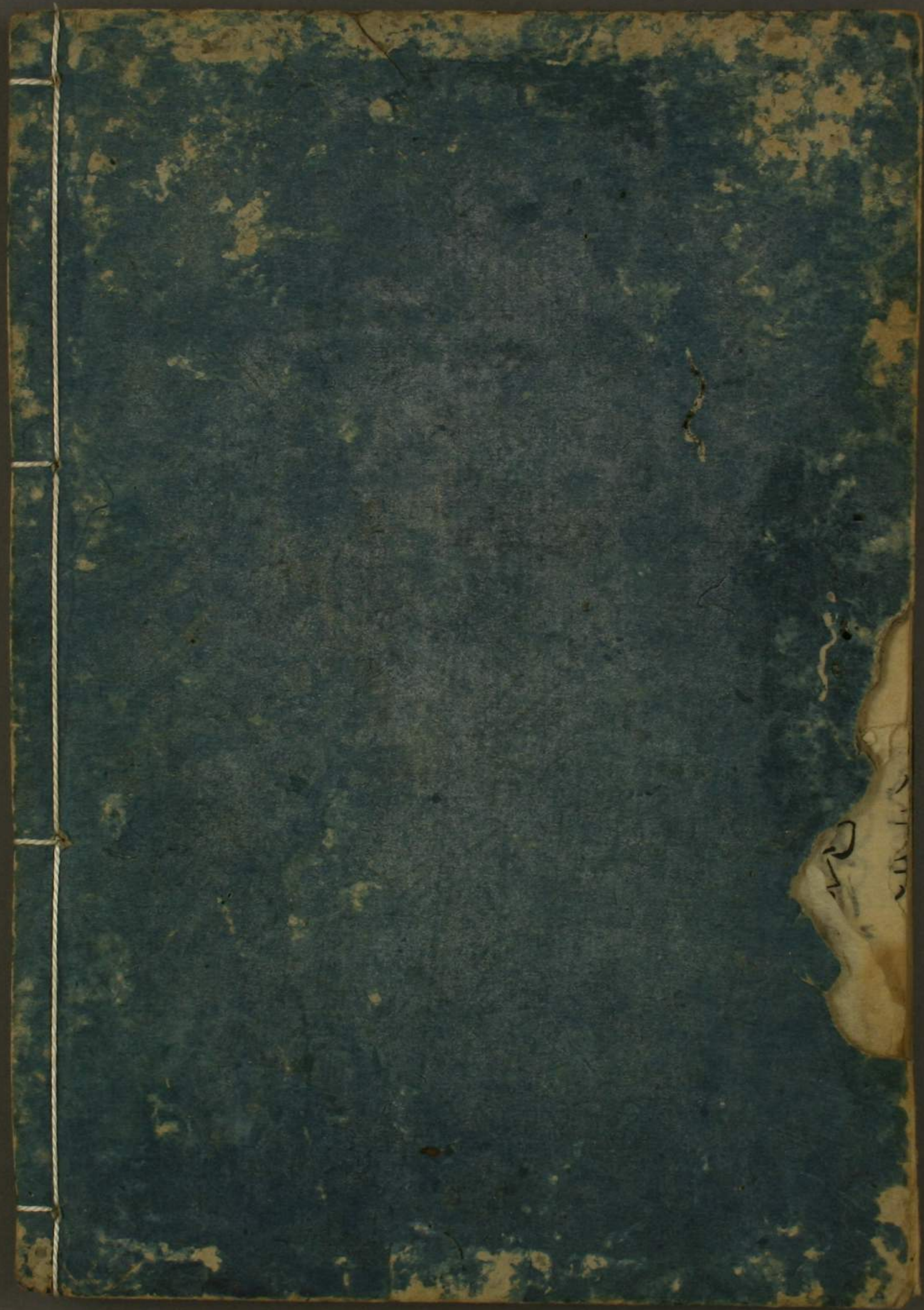
卷之三

易九

卷之三

每

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



Handwritten characters on a label, likely indicating the book's title or author. The characters are in black ink on a light-colored background.